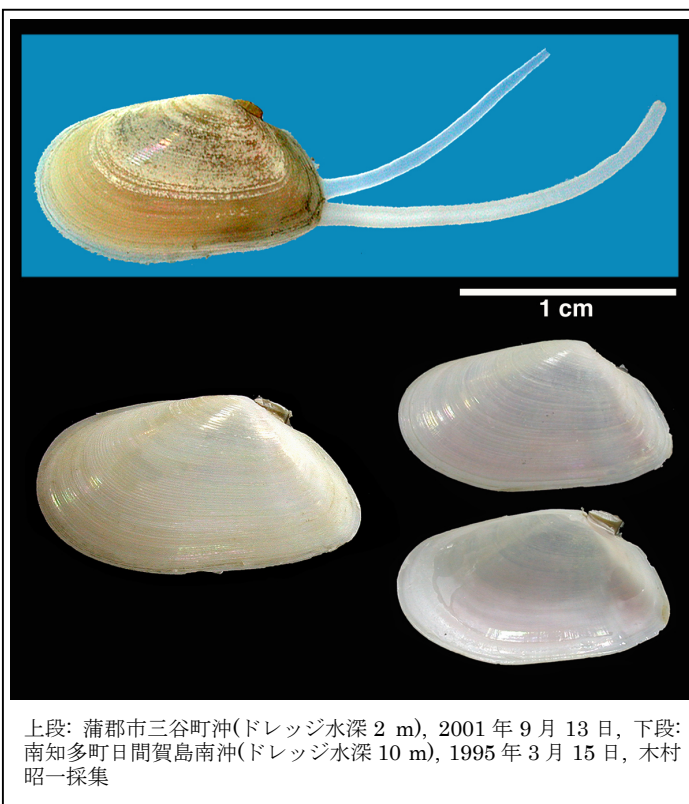


ウズザクラ *Nitidotellina lischkei* M. Huber, Langleit et Kreipl

【選定理由】

本種は内湾の潮間帯から潮下帯の砂泥底に生息する。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化している、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も明らかに生息場所、個体数とも減少している。現在でも三河湾湾口部の一部では健全な個体群が残っているが、そのような場所は少ない(木村, 1996; 木村, 2000)。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。



【形態】

殻長約 10 mm、殻は長い卵形で膨らみは弱く扁平。殻は薄く、白色から桃色で、殻表は成長脈がやや強いが光沢がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、生息場所、個体数が減少している。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、国内では北海道南部～九州まで分布する(木村, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は悪化しているため、本種の生息場所、個体数とも激減したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

本種は近年の分子生物学的手法による解析から複数種が含まれている可能性が示唆されている(木村, 2012)。それを裏付ける様に各地の標本を比較すると殻形態にも相違がみられるが、県内内湾域で採集される個体には形態的な変異がほとんど認められず、単一種が分布している可能性が高い。

【引用文献】

- 木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.  
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20.  
木村昭一, 2012. ウズザクラ, p. 126. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)